JLIA

JAPAN LEATHER AND LEATHER GOODS INDUSTRIES ASSOCIATION

97
March.2013

伊藤英明さん、剛力彩芽さんを選出

ベストレザーニスト2012

銀座に革のショールーム「TIME & EFFORT」がグランドオープン

Japan Leather Award 2012

04 皮革親善大使任命式を開催
前年に続き、石田純一氏

08 東京インターナショナル・ギフト・ショーに
「Japan Leather Styles2012」を出展

12 全国から集まる革の公募展
「第31回日本革工芸展」を開催

Event & Topics

16 平成23年度「足入れの良い健康革靴プロジェクト」
報告会を開催

18 JLIA法制委員会セミナー
「知財から見た中国との付き合い方」について

伊藤英明さんと剛力彩芽さんを選出

ベストレザーニスト2012

その年で、最もレザーが似合う著名人に贈られる「ベストレザーニスト」。2012年は、男性部門に俳優の伊藤英明さん、女性部門に女優の剛力彩芽さんが選ばれ、11月3日、原宿にある「原宿クエストホール」で授賞式が行われた。

この日が初対面だというお二人。「レザーが似合ってる（剛力さん）」「いつも癒されています（伊藤さん）」とお互いの印象を語った。

青年会から送られた記念品

率先して日本の皮革製品の良さを伝えてもらいたい

日本の皮革製品の魅力を広く伝えるため、毎年レザーの似合う著名人を男女1名ずつ選出しているベストレザーニスト賞。２０１２年の授賞式が「いいレザーの日」である11月3日に行われた。

さっそく、ベストレザーニストに選ばれた伊藤さんと剛力さんが登場し、連合会の岩﨑会長からトロフィーが贈呈された。その後、岩﨑会長は「伊藤さんと剛力さんには、これからも率先して日本の革製品を応援していただき、Ｍａｄｅ Ｉｎ Ｊａｐａｎを推進していただきたい」と今後の活躍に期待を寄せた。

今回、初めてベストレザーニスト賞を受賞した伊藤さんと剛力さん。初受賞の感想について聞かれると、伊藤さんは「すごく嬉しい。19年前、この場所でジュノンボーイコンテストの準グランプリを受賞して芸能界入りしたので感慨深いものがある」と語り、剛力さんも「ファッションが好きなので、受賞を聞いたときは嬉しかった。レザーは大人のイメージがある。これをきっかけにレザーを着て、新しい一面を見せたい」と語った。

革製品は人生をカスタマイズできるもの

この日はそれぞれレザーを身につけて登場した2人。まず、ブルーのドレッシーなワンピースにアクセサリーとレザーを合わせてクールな着こなしの剛力さんは、コーディネートのポイントについて聞かれると「レザーは格好いいイメージ。今日は授賞式なのでパーティーをイメージした」と笑顔で語った。また伊藤さんは、この日のために友人に作ってもらった黒のレザージャケットにスラックスというフォーマルな着こなしで「革製品は人生をカスタマイズできるものだと思う。日本の革製品は海外のものに比べて安くて質が良い」と革へのこだわりを熱く語った。

その後、青年会から伊藤さんと剛力さんへブルゾン、ベルト、バッグ、手袋、靴の5点が贈られた。事前に採寸をして自ら監修も務めたブルゾンを手にした伊藤さんは「イメージ以上の作品に仕上がっている」と嬉しそうに語り、剛力さんも「レザーはかわいくも格好良くも着こなすことができると改めて感じた」と革製品の魅力を改めて感じた様子だった。

最後に革の魅力について聞かれると「一生つきあえるもの」と語る伊藤さん。剛力さんは「革製品は着続けて使い続けて味が出るもの。将来、子どもにも伝えたい」と今後の思いを語った

皮革親善大使任命式を開催
前年に続き、石田純一氏

2012年の皮革親善大使任命式では、前年に引き続き、タレントの石田純一さんが選ばれた。ベストレザーニスト授賞式に先立って行われた任命式では、連合会の岩﨑会長から石田さんへ任命状の授与と青年会からオリジナルバックが贈呈された。

任命式に先立ち、連合会の岩﨑会長が「今回で5人目の親善大使の任命。自ら愛用することで日本の皮革製品の品質の良さや価値の高さを伝えていただきたい。これからは上海にあるJLIAのショールームと銀座の「TIME&EFFORT」を活用してPRしたい。品質の良さ、ファッション性の高さを伝えていきたい」とあいさつをした。

その後、司会者の紹介と共に茶色のレザージャケットに身を包んだ石田さんが登場。「昨年に引き続き有り難うございます。〝革の伝道師〟として、日本の皮革製品の質の良さや職人の精神を国内外に伝えます」と今後の抱負を語った。石田さんは前年に引き続き、日本の皮革や皮革製品の良さを広めるため広報活動に取り組む。

レザーグッズプレゼントキャンペーンを2012年も実施

**連合会は2012年も『大切な人に革を贈れば、“革らぬ想い”がきっと届く。』をテーマに
レザーグッズプレゼントキャンペーンを実施した。
ベストレザーニストの授賞式と同日に行われた表彰式では、
受賞者とそれぞれの“大切な人たち”が登壇し、会場を温かく包み込んだ。**

2012年は「大切なあの人へ、あの子に贈った、またはもらったレザーグッズにまつわるエピソード」を応募テーマとし、9月1日～10月10日までオフィシャルサイト上で募集した。応募作品の中から選出された優秀賞の20名にはオリジナルの「革のフォトフレーム」をペアでプレゼント。さらにその中から選ばれたグランプリ1名、準グランプリ2名には、銀座の「TIME&EFFORT」からバッグなど副賞が贈られた。

表彰式後には、プレゼンターを務めた伊藤さん、剛力さん、石田さんがそれぞれ感想を述べた。

「革製品がみなさんに寄り添い、一緒に時を重ねていく姿が見えた。皆さんの思いに心が温まった」と伊藤さんが語ると、剛力さんも「数年後に『あの時のプレゼントだね』と振り返って欲しいですね」と話した。石田さんも「革製品は人生を共にできるもの。私自身も今年、革婚式なのでプレゼントしたい」と語った。

キャンペーン受賞者

グランプリ
葩島 真由子さん

初めて妊娠したときにご主人から大きめのレザーバッグをプレゼントされた。これまで２人のお子さんの母子手帳を大事に守ってきたバッグに、今入っているのは３人目のお子さんの母子手帳。エピソードには「母子手帳もバッグも大切にしたい」という思いが込められている。また、11月３日はちょうど２番目の娘さんの誕生日。「次女の誕生日に大好きなレザーに関わる賞をいただけて嬉しく思います」と語った。

準グランプリ
小笠原 麻呂以さん

誕生日にご主人からもらったプレゼントは、色も形も大きさも好みに合ったレザーのバッグ。もうすぐ結婚３年目の“革婚式”を迎えるので“絆”を深めるものを買いに行きたい。いつも気の利いたプレゼントをしてくれるご主人へ感謝の思いが込められているエピソード。「家族の良い思い出となりました」と語った。

準グランプリ
木村 淳さん

定期券をよくなくすという彼女へ、付き合いはじめて３年目の記念日にレザーのパスケースをプレゼント。長く使って欲しいと良い革を選び、それをきっかけに彼女も革製品に興味を持つようになった。「2 人の思い出に残る記念日になりました」と話した。

eather Award 2012

グランプリは大河なぎさ氏（tokyo toff）

国産のなめし革を使用した皮革製品のコンテストである「Japan Leather Award 2012」。日本在住のつくり手から集まった作品の中から、厳正な審査により選ばれた12名の受賞者が決定。2012年も「いいレザーの日」の11月3日、「原宿クエストホール」にて各賞の発表と表彰式が行われた。

「Japan Leather Award」は、その時々の一般消費者ニーズや要求に即応できる、新たな〝発想・着想〟を持つ人材を育成したい」という目的のもと、連合会が毎年開催している。5年目を迎えた2012年は〝麗しきおくりもの～肌と肌が触れ合う、革だから伝えられることがある～〟をテーマに広く作品を募集。

プロフェッショナル（紳士靴、婦人靴、メンズバッグ、レディースバッグ、雑貨、エコレザーの6部門）からは過去最高となる167点、アマチュア（メンズ、レディースの2部門）からの38点と合わせ、205点もの作品応募があった。

その205作品の中から見事グランプリに輝いたのは、大河なぎささん（tokyo toff）の「shoes album〝0〟」。0歳用の小さな革靴で、オリジナルボックスにはフォトフレームが付き、新しさの中にもノスタルジックな雰囲気が漂う作品だ。表彰式で大河さんは「きっかけは友人の出産祝い。喜んでもらえたので、試作を繰り

プロフェッショナル				
賞・部門			受賞者（所属）	ブランド名
グランプリ	エコレザー		大河 なぎさ （tokyo toff）	tokyo toff
部門賞	紳士靴		廣川 雅一 （株式会社ヒロカワ製靴）	スコッチグレイン
	婦人靴		渡辺 繭子 （宮城興業株式会社）	wsp
	メンズ バッグ		佐藤 直人 （有限会社ナオトサトウ）	NAOTO SATOH
	レディース バッグ		中村 保義 （シーソー株式会社）	KATANO KABAN
	雑貨		加藤 光也 （革工房アバッリ）	ABALLI
審査員 特別賞	雑貨		花田 春臣 （株式会社リーガル コーポレーション）	未定
			土平 恭栄 （.URUKUST）	.URUKUST （ウルクスト）
			大澤 美希子 （ナスタチウム）	nasturtium （ナスタチウム）

アマチュア				
賞・部門			受賞者（所属）	作品名
部門賞	メンズ		二本　真 （三井造船株式会社）	靴にしてから 鞣した靴
	レディース		中村 郁代 （エスペランサ靴学院）	夜を縫う ー Japanese Embroidery KOGIN ー

Web 投票特別賞				
賞・部門			賞・部門	作品名
Web 投票 特別賞	アマチュア メンズ		照下　稔 （Bobby Art Leather）	For Rock Star

Japan L

返しながら完成した。贈る人も贈られる人も、その周りの人が幸せで優しい気持ちになれるようにという思いで作った」と、作品への思いを語った。

最後に、プレゼンターを務めた昨年の皮革親善大使であり、数日後にお子さんが生まれる予定の石田純一さんへグランプリ作品がプレゼントされることとなった。受賞者の大河さんから作品を受け取った石田さんは「感無量で言葉にならない。作者の優しさや慈しみを感じる」と言葉をつまらせながら語った。

なお今年の受賞作品は、11月3日～10日まで銀座にある革のショールーム「TIME&EFFORT」で展示された。

審査員長より

東京藝術大学
美術学部 工芸科
染織研究室教授
菅野 健一氏

参加者の情熱と力が日本の革製品の未来を支える

2009年には156点だった応募総数も、2010年には176点、2011年には191点、そして今年は205点と年々増えています。特にプロの方の応募が増えており、皆さんの関心が高まっていると感じています。今回、惜しくも落選してしまった方々には、来年・再来年もチャレンジしてほしいと思っています。皆さん一人ひとりの情熱と力が日本の革製品の素晴らしさを広めるのです。消費者の意識を高めることで、日本の皮革製品を世界へ発信する力にしたいと思っています。

東京インターナショナル・ギフト・ショーに「Japan Leather Styles2012」を出展

2012年9月5日～7日の3日間、東京ビックサイトにて
「第74回東京インターナショナル・ギフト・ショー秋2012」が開催された。
連合会はこのイベント内にブース「Japan Leather Styles2012」を初出展。
皮革産業に関わる13の企業・グループが集まり、各社こだわりの製品を出展した。

全国から集まるクオリティの高い日本の革製品

最新のデザインや高い技術が施された製品の見本市として、世界から評価を得ている「東京インターナショナル・ギフト・ショー」。毎年3日間で20万人を動員するこのイベントには、全国からパーソナル・ギフトを取り扱う小売・卸業のバイヤーが集結する。今回が初出展となる連合会のブースではベルト、名刺入れ、財布などの小物をを中心とした製品が並べられ、日本の皮革製品の高いファッション性や品質の良さをアピールした。

テーマは「日本製」。展示された製品は、日本製の革を使い、日本で作られる「Ｍａｄｅ ｉｎ Ｊａｐａｎ」にこだわったもの。各出展企業は、自社製品の特徴をアピールすべく、工夫を凝らしていた。

参加者は事前に連合会が主催した出展者向けのセミナーを受

出展企業の声

様々な業界の人に製品の良さを伝えたい

有限会社Ａ＆Ｃハウス
多田修さん

イタリアをテーマに、カーボンファイバーと本革を組み合わせた製品を中心に出展しました。iFデザイン賞※を受賞した「ビジネスバッグ」は男性の方を中心に大変好評です。

今回、出展したことで百貨店やプレスの方とお話ができました。この様な機会を今後も積極的に活かし、様々な業界の人に製品の良さを伝えたいです。

※ドイツ・ハノーファーを拠点とするデザイン振興のための国際的な組織インダストリー・フォーラム・デザイン・ハノーファー（iF）が、毎年全世界の工業製品等を対象に優れたデザインを選定する。世界的に最も権威のあるデザイン賞の一つ。

日本の技術を知ってもらいたい

株式会社絹や
山田千鶴さん

私たちは徳島から参加しました。

ジーンズの生地に使われる藍染めの技術を皮に応用しました。3年前から始めた事業なので、実際の製品を人に見ていただくのは今回が初めてです。

様々な業種の方と商談をさせていただけたので、今後もイベントに参加して日本の技術を知ってもらいたいです。

横の繋がりができた

くらふと風船葛
藤本玲湧さん

香川県内で皮革製品の製造をしている4名の職人と共同して出展しました。

私はバッグやベルトなどレディース製品中心ですが、他の職人の方は車･バイク用のグローブや靴を出展しています。

今回はショップや百貨店など多くの方々とお話しするだけでなく、同業者同士の横の繋がりもつくることが、ビジネスのヒントになる情報を得られました。

[出展事業者]（50音順／13社）

- 有限会社 A&C ハウス
- Allamanda-leather
- 株式会社アンドロールス
- 岩崎株式会社
- eternity.co.ltd
- Petrarca（株式会社　キクヒロ）
- 絹や
- SLC（Sanuki Leather Community）
- サンダー商事株式会社
- S*sakamoto
- 有限会社 Gee
- DADY（株式会社　三竹産業）
- LISTA

講。プロのバイヤーとアドバイザーから「商談をしたい展示ブース」についての講義と、展示方法のアドバイスを受けた。セミナーの内容を受けて、各企業は、ブランドコンセプトがしっかりと表現されたブースでバイヤーと商談を進めることができた。

今回参加した企業は東京だけでなく大阪や徳島、香川からも集まった。今後も、連合会は継続して様々な業界が集まるイベントに出展し、日本の皮革製品の魅力を伝えていく。

「TIME&EFFORT」がグランドオープン

2012年8月28日、日本皮革産業連合会は、革のショールーム「TIME&EFFORT」をオープンした。当日は、ショールームでオープニングセレモニーとスペシャルトークショーを開催した。

オープニングセレモニーで行われたテープカット。
左から経済産業省　坂本 敏幸氏、平成24年度皮革親善大使　石田 純一氏、日本皮革産業連合会　岩﨑 幸次郎会長、クリエイティブディレクター　熊谷 隆志氏、日本皮革産業連合会　大澤 重見名誉会長

始めに行われたオープニングセレモニーでは、日本皮革産業連合会会長の岩﨑幸次郎氏が挨拶で「銀座という国際的な街のブランド力を生かして、日本の皮革製品の魅力を世界に発信したい」と述べた。続いて2011年度皮革親善大使の石田純一氏からは「日本の技術を応援したい」、経済産業省製造産業局紙業服飾品課課長の坂本敏幸氏からは「これからどのように成功していくかが大切」と挨拶をいただいた。

続いて行われたスペシャルトークショーには、岩﨑幸次郎会長、石田純一氏、ショールームのクリエイティブディレクターを務めた、ファッションスタイリストの熊谷隆志氏の3名が参加。ショールームへの思いや日本の革製品、今後の抱負について語った。

国内外に日本の革製品を発信したい

――オープンした今の気持ちを教えてください。

岩﨑　連合会としては、今日までに3年かかりましたので、やっとたどり着いたという感じです。また、「銀座」という場所で、国内外に日本の革製品を発信するための基地をつくることができたという思いでいっぱいです。

熊谷　今回のお話をいただいた時、「日本の革製品の集大成」がテーマであると聞き、使命感や日本人の誇りを感じました。私は仕事で海外に行くことが多いのですが、日本の革製品は一流と言われる本場イタリアのものに匹敵すると思っています。それは、日本人はもの作りに対する謙虚さがあるからだと思います。このショールームにも、そのエッセンスを盛り込んだのでぜひ、感じてもらいたいです。

――「TIME&EFFORT」とはどういう意味でしょうか。

岩﨑　これは「手間暇をかける・努力する」という意味があり、国内メーカーが日本の皮革産業の総力を挙げて製作しています。ここに展示しているものはすべて熊谷さんに監修していただいており、本当に素晴らしいものです。自信を持ってアピールしたいです。

――手間暇をかけるというのはとても素晴らしいことですよね。

石田　匠の精神やスピリットを感じます。革製品は一生使えるため、苦楽を共にできるものの象徴だと思います。今は、すぐにものが手に入る時代なので、長く使うことの大切さを感じられます。また、「革」とは天然のもので動物の魂を大切にするという精神につながりますよね。親が着ていたジャケットを子どもが着たり、

世代を超えられるのも理想ですね。

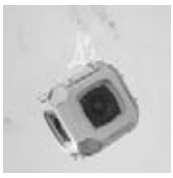
製品以外にも様々な場所に革を使用

――ショールームの展示内容やこだわり、ご覧になった感想をお願いします。

岩﨑　各メーカーの商品を熊谷さんにすべて監修していただいていますので、熊谷さんの世界観を感じていただきたいです。一部、熊谷さんのオリジナル商品もあります。

石田　第一印象は「かっこいい」と思いました。そしてコストパフォーマンスが素晴らしいですね。銀座界隈の有名ブランドよりも低価格で質の良いものが手に入るのは魅力です。

熊谷　こだわりは細部にあります。フィッティングルームのカーテン、階段の手すりや何度も工場と打合せをして作ったスピーカーなど様々なところに革を使っています。


ショールーム内にあるスピーカー。革の部分はインテリアに合わせて、カラーを変えたり取り外しが可能

1階から2階へつながる階段。手すり部分に革使用

フィッティングルームのカーテン

――では最後に、一言ずつ思いや期待、今後の抱負などを教えてください。

石田　ここはまさに日本の革製品の宝庫です。今までに見たことのないような匠の技の数々があるので、今後も応援していきます。

熊谷　私が担当したオリジナル製品はもちろんですが、日本の革製品の魅力を存分に発揮できるように監修しました。ここに来られた方が日本の革製品の強いサポーターになっていただけることを望んでいます。今後もよろしくお願いします。

岩﨑　一度展示したらこれで終わりではなく、いかに活用していくかが大切です。熊谷さんや石田さんのご協力を得ながら業界全体で頑張りますので、これからも応援をお願いします。

トークショーでは革製品への熱い思いが語られた

「TIME&EFFORT」の特徴

ジャパンブランドを醸成
展示や各種イベントを通して革製品の品質の良さを情報発信し、ジャパンブランドを醸成することを目的とします。

日本の職人の「ものづくりへの姿勢・精神」を表現
日本の職人の「ものづくりへの姿勢・精神」を表現しています。作り手だけでなく皮革製品を使う人にも「手間ひまかけて育てるよろこび」を感じていただきたいという思いが込められています。

ファッションスタイリスト熊谷隆志氏を起用
ショールームではファッションスタイリストである熊谷隆志氏とコラボレートすることで、日本製皮革・皮革製品の魅力・品質・価値を訴求します。

「ふれあい」を重視した店内イベントの展開
お客様とのふれあいを目的とした店内イベントを会員団体の協力のもと実施します。お客様ご自身の手でレザーアイテムを作る喜びや皮革に関する知識を深める楽しみ、お気に入りのレザーアイテムを長持ちさせるテクニックを学ぶ幸せなど、お客様がレザーに対する親近感や愛着を深めるイベントを実施します。

3か月ごとに商品を更新
オリジナル製品はショールーム限定の展示品で、日本技術の繊細な「匠の技術」と、徹底した「おもてなしの心」による「ものづくり」のコンセプトにそった商品です。国内の皮革関連企業・団体による出品商品の中から、鞄、ハンドバッグ、靴、小物を中心に「TIME&EFFORT」としてふさわしい商品を選び、約150点を3か月ごとに変更します。

革のショールーム　「TIME&EFFORT」
所 在 地：東京都中央区銀座8-5-4
　　銀座マジソンビル
営業時間：月～金　12：00 ～ 20：00
　　土・日・祝　11：00 ～ 19：00
　　URL：http://timeandeffort.jlia.or.jp
アクセス：東京メトロ銀座線「銀座駅」徒歩6分
　　JR山手線「新橋駅」徒歩5分
　　都営三田線「内幸町」徒歩6分
　　東京メトロ日比谷線「日比谷駅」徒歩7分
　　都営浅草線「東銀座駅」徒歩8分

全国から集まる革の公募展
「第31回日本革工芸展」を開催

連合会と日本革工芸会が主催する「第31回日本革工芸展」を、2013年1月17日～1月20日、池袋・東京芸術劇場の展示ギャラリーで開催した。

受賞作品

❶日本革工芸大賞 「渦」
空閑玲子さん（福岡）

❷文部科学大臣賞 「三世代」
田中準子さん（栃木）

❸東京都知事賞 「流紋」
有田敬子さん（東京）

ベテランの安定した作品と若い世代ならではの作品が融合した展示会

「主たる製品に革を使った作品」がコンセプトの本展示会は、日本で唯一の革製品だけの公募展。全国から156点の作品が集まり、その中から12点の作品に賞が贈られた。

会場には受賞作を含む、絵画などの平面、人形などの立体、バッグなどの服飾の全156作品が展示。今回、日本革工芸大賞は空閑玲子さんの「渦」❶が受賞し、アイデアの発想や構成、空閑さんの確立された世界観を表現する技術が高く評価された。文部科学↖

会場の様子

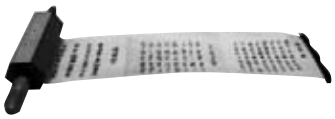
無鑑査

❻「晩夏」
横山朝覧さん（北海道）

学生作品

❼「上野に来たツタンカーメン」
吉田凌也さん（東京）

❽「二羽にわとりバック」
西田瑞代さん（大阪）



日本皮革手工芸材料協会会長賞
「革装魯迅挽歌詩巻」
髙野利達さん（神奈川）

経済産業省製造産業局長賞
「パンドラの箱」
大竹正博さん（茨城）

東京都産業労働局長賞
「夏を待つ」
戸川辰代さん（神奈川）

日本革工芸会会員賞 「変様」
中村早苗さん（愛知）

経済産業省製造産業局長賞 「まねきねこ」
吉野ヒロ子さん（山口）

東京都産業労働局長賞
「glory（一輪ざし VOL.3）」
南真亜紗さん（長野）

日本革工芸会賞 「ポロネーズ」
畠本玲子さん（秋田）

❹日本皮革産業連合会会長賞
「歪曲」
三澤則行さん（東京）

❺全国皮革振興会会長賞
「噛みつきライオン」
坂本よし子（広島）

大臣賞を受賞した田中準子さんの「三世代」❷は、祖母、母、娘の三世代がおりなす雰囲気が見ている人の心を温かくする作品。東京都知事賞を受賞した有田敬子さんの「流紋」❸は、流れる線と色の調和が人を惹き付ける作品である。また、日本皮革産業連合会会長を受賞した三澤則行さんの「歪曲」、❹全国皮革振興会会長賞を受賞した坂本よし子さんの「噛みつきライオン」❺は、熟練された技術とアイデアや細部にまで行き届いたこだわりがそれぞれ評価された。

また、今回から「無鑑査制度」を導入。前回「30回記念日本革工芸大賞」を受賞した横山朝覧さん❻が選ばれた。この制度は、毎回、素晴らしい作品を出展し受賞される方を讃えるために設けられた制度で、今後も引き続き選出する予定である。

第29回から、学生を対象とした「学生割引制度」を設けたことで、今回も多くの学生が出展した。「上野に来たツタンカーメン」を制作した吉田凌也さん❼は小学生。西田瑞代さんの「二羽にわとりバック」❽は羽の一本一本が丁寧に作られている。これらのように、学生ならではの柔軟な視点で作られたユニークな作品も数多く出展され、他の革工芸作家の創作意欲を刺激すると同時に、若い世代の今後の活躍に期待が寄せられる展示会であった。

前回新人賞を受賞し、今回日本皮革産業連合会会長賞を受賞されました

靴を作品として見ていただけるように

MISAWA&WORKSHOP
靴作家
三澤 則行さん

普段はオーダーメイドの革靴を製作しているので、このような作品を作るのは、年１回、この展示会の時だけです。いつもの革靴を作るときとは違う、独創的な作品を作ることは、自分の技術の幅を広げるためにも貴重な経験を積める機会です。

靴は履いたり、置いたりするものですが、そこを作品として残したいという思いから、本作品のアイデアが生まれました。前回、出展したときに他の作品を見て、まだまだ自分に足りないものがたくさんあると感じ、絵画など他の芸術作品にも触れて勉強しています。

靴は、消耗品に思われがちですが、作品として見ていただけるようなものづくりを目指して、今後も出来る限り出展して成長したいです。

TOPICS

「鞄・ハンドバッグ・小物・表示テキスト等に関する説明会」を開催

近年、原産国表示など革製品の表示のあり方が問題になっていることを受けて、連合会ではプロジェクトチームを立ち上げ、2011年度から日本鞄ハンドバッグ協会と連携して品質表示について検討してきた。そこで関連法令や表示関連の基礎知識、本プロジェクトチームの検討状況についての説明会を2012年8月21日に開催した。また、同様の説明会を大阪、名古屋、豊岡でも開催した。

今回の説明会では、冒頭に鞄・ハンドバッグ表示適正化プロジェクトチームの吉村座長が、参加者に「正しい品質表示とはどういうものかをしっかり理解してもらいたい」と述べた。前半は、昨年連合会が作成した「鞄・ハンドバッグ・小物　表示テキスト」を元に、その作成に協力いただいた財団法人カケンテストセンター東京事業所の三橋卓也氏に関連法令や表示関連の基礎知識、表示方法や諸課題について説明をしていただいた。後半は、プロジェクトチーム委員の那須敬弘委員から「鞄・ハンドバッグ・小物表示適正化ガイドライン」策定に向けた検討状況についての説明があった。

「鞄・ハンドバッグ・小物表示テキスト」について

財団法人カケンテストセンター東京事業所
三橋卓也氏の説明（要旨）

近年、「鞄・ハンドバッグ・小物」などは消費者ニーズの変化に伴い、皮革素材以外の様々な繊維素材・合成素材や、これらを組み合わせたものの製品が数多く見られるようになりました。その結果、これらを本物の皮革であるかのような不正表示をして高く売る事例が増えてきたのです。そこで業界、世代を超えて関係する法律や規則を理解し、品質情報を共有化することで公正な競争の一助になることを目的に表示テキストが作成されました。

嘘をつかない、周知させる

まず、表示について定められている「不当景品類および不当表示防止法」には、表示による顧客の不当な誘引を防止するため、消費者に実際以上に「優良である」と誤認させる恐れのある表示を禁止する規定があります。実際、製造者が虚偽の表示をして行政から排除措置命令が下され、廃業に追い込まれたという事例も多くあります。また、消費者が目視できないような部分に表示を付けるのも不当表示にあたります。きちんと表示をすること

は、消費者のブランドへの信用度につながる大切なもの。「嘘をつかないこと」、「一般消費者がよく認知できること」が表示の原則として大事だということを知っておいてください。

素材についての規定

こういった法律を守るためには、革やその素材について知ることも必要です。品質表示についての法律である「家庭用品品質表示法」によると、かばんのうち、外面積の60％以上に牛、馬、豚、羊、やぎの革を使用したものは、「牛革」などの皮革の種類の表示をする必要があります。

素材についても皮革・繊維共に様々な種類があるので、分類とその特徴を認識する必要があります。表示には正しい名称を使用しなければなりません。そのことを心掛けてください。

私たちが考えなければならないこと

また、最近では生産地が日本以外の場合も多くあるため、品質の評価や基準を決めるのに国際的な工業標準であるＩＳＯ（国際標準機構）が採用されることが多くあります。工業標準は各国で異なる規定が定められているため、現在、ＷＴＯ（国際貿易機構）のＴＢＴ協定（※）によってＩＳＯをＪＩＳ（日本工業規格）化する動きが進められています。しかし、品質というものは、状況によって変化します。そのため、標準を決めることが困難な場合もあります。

※ＴＢＴ協定とは
加盟国全てに対して、強制規格、任意規格、適合性評価手続について適用することを求め、規格類を国際規格に整合化することで、不必要な貿易障害を取り除くことを目的としている

当たり前のことを当たり前にする

鞄・ハンドバッグ表示適正化プロジェクトチーム委員 那須敬弘委員の説明（要旨）

私たちプロジェクトチームは品質表示について「業界として当たり前のことを当たり前にする」ということをテーマとして活動しています。そこで「表示テキスト」を参考に、法令遵守やグローバルアイテムとの整合性、管理の煩雑さを回避することを意識して、ガイドラインの作成を推進しています。

まず、このガイドラインの基本として「法令遵守を基礎として企業の存続に係わる重要事項を定める」「法令遵守している企業を保護する」「一般消費者に対し優良誤認をさせない」の３つを念頭に置いています。

優良品でも表示していなければ「不当表示」と同じことです。皆さんも大前提として法律を守るということを意識していただきたいと思います。

また、策定にあたっては以下の３点を特に重視しています。

①品質（素材）表示
②原産国表示
③摩擦堅牢度・強度基準

①は、最近、海外からの輸入品が増加し、組成を把握しきれず誤表記をしていたり、消費者に対し優良誤認を与えることが増え、指摘を受けることが多くなっています。消費者だけでなく販売員も誤認をしないように注意が必要です。

②については、現在検討中の段階ですが、次のフローを考案しています。まず生産工程を素材、部材、加工、追加加工（簡易加工）、仕上げ、パッケージの６つに分類します。一般的な表示の場合、加工と追加加工をＡ国で行えば、原産国はＡ国と表示されますが、加工をＡ国、追加加工をＢ国で行った場合、原産国はＡ国でＢ国は任意表記となります。また、特殊例の表示の場合、例えば部材が製品の重要な構成要素であると、加工国の羅列をしなければなりません。

③の「摩擦堅牢度」では、摩擦により素材の色が他のものに着いてしまうなど、その汚れ度合いを検査したり、「強度基準」では、製品がどれだけの重さに耐えうるかを検査します。

現在、このようにガイドラインの検討・作成を進めています。皆さんが日頃疑問に思っていることや、消費者からのクレームを教えていただき、それらを生かすことでさらに充実したガイドラインの作成に務めます。ぜひ、引き続きご協力をお願いします。

EVENT

平成23年度「足入れの良い健康革靴プロジェクト」報告会を開催

2012年10月4日、皮革健保会館で、平成23年度「足入れの良い健康革靴プロジェクト」報告会が開催された。これは経済産業省が主催する「足入れの良い革靴に関する検討委員会」と連動した3か年計画のプロジェクト。連合会は独立行政法人産業技術総合研究所（以下、産総研）に研究を委託し、様々な実験を行っている。当日は、本プロジェクトリーダーである産総研の持丸正明氏にプロジェクト概要と初年度の研究内容、そして今後作成予定のガイドラインについて報告をしていただいた。

開会に先立ち、足入れの良い革靴に関する検討委員会委員長の大澤重見氏が「Made in Japanならではの新たな価値観を確立し、足入れの良い靴を作ることで国内外へと幅広く事業展開したい。まだ課題や研究をしていくことはたくさんある。今後、定期的に中間報告を行うので、皆さんも参加し、それぞれの事業の中で活かしてほしい」とあいさつした。続いて、経済産業省製造産業局紙業服飾品課企画官の高橋政義氏があいさつ。「〝履き心地の良い靴〟は人によって感覚が違う。例えば値段なのか買う頻度なのかデザインなのか。消費者が注目する点を調べて、どのような靴を求めているのかを明確にする必要がある」と述べた。

高橋政義氏

大澤重見氏

足入れの良い靴を目指して

持丸正明氏

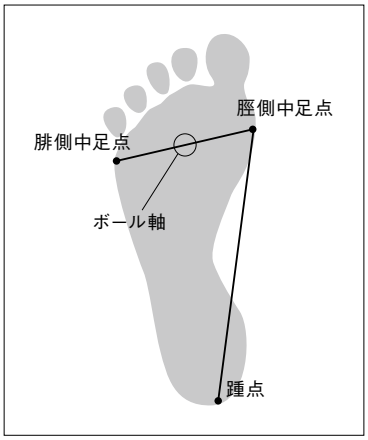
本プロジェクトの目的は足入れが良い健康革靴の設計ガイドラインの作成。ここで言う「足入れが良い健康革靴」とは、

①最初に履いたときのフィット感が良い
②長く履いてもフィット感が損なわれない
③足にトラブルを起こさない

この3つに該当する靴のことを指す。近年は人口が減少傾向にあるため、店舗で売れる製品を作り、リピーターを獲得することは重要であると指摘した。また、今回はオーダーメイドの靴ではなく量産品の靴を検討しているため、サイズの種類をできるだけ増やさずに、フィット感を向上させることも目標としている。「これらを踏まえて、日本製革靴におけるフィット感を向上させ、足にトラブルを起こさないという品質を担保し、ブランドを形成することを最終目標としている。そして、国内外だけでなく海外にも販売したい」と持丸氏は述べた。

歩行時の圧力や足の形状に注目した実験

昨年度は、ボール部（つま先の部分）に注目して「足と木型」、「足と靴」の2つの関係を中心に調査。そこで女性用の5～6㎝のヒールのあるパンプスと男性用のビジネスシューズで検証をした。当日は女性用パンプスでの調査内容が紹介された。初めに研究のベースとなる靴型を選定するため、本事業の協力企業に長期で売れている市販の23㎝の靴と靴型を複数提供していただき、自称サイズ23㎝の女性60名に試履実験を実施し、足の3次元形状を計測した。そして、それぞれの靴の評価コメント、足の寸法、靴型の特徴等を分析して、2種の靴型を研究のベース靴型とした。試履実験の結果、歩行時に足が折れ曲がる位置と靴の折れ曲がる位置に系統的な差があった点に注目し、足のボール軸と靴のボール線を合わせて、消費者の平均的な角度に合うよう靴型を修正した。



さらにモーションキャプチャーと圧力センサーシートを使用して、歩き方や歩く時にかかとやつま先にどのくらいの力がかかっているのかを調べた。

これらの研究結果を活かして、平成24年度の調査では、アーチ部（土踏まず部分）やヒール部（かかと部分）に注目して実験を行う予定。その他にも素材やパターン（型）などの違いによる足への影響も実験し、研究結果を後述のガイドラインに集約する。

改良された靴

ガイドラインの策定に向けて

続いて、「足入れの良い革靴設計ガイドライン」についての説明があった。足入れの良い革靴のための要件は次の6つ。

①ターゲットとなる消費者の情報取得
②木型修正
③試履試験方法
④パターン設計方法
⑤グレーディング方法
⑥設計情報を正確に転写する製造プロセス

①は消費者の足の特性情報や製品の使用情報。②は産総研が実施している、消費者の足の特性に合わせた木型の修正方法。③は試履モニターの足の特性を確認することで評価方法のガイドラインの作成。④は素材、パターンの影響を考慮するガイドライン。⑤は消費者の足の形を効率的にカバーできるサイズ展開方法で、「今後力を入れていきたい要件」と持丸氏は語る。⑥は木型を反映させた製品を作ることである。

今後はこれらのポイントを軸に、メーカー・卸・販売・皮革・部品企業へヒアリングを行う。それらを元に共通プロセスを設定し、ブランドを確立することで、実現・受容可能なレベルの必須要件へ絞り込む。「クオリティにこだわり、消費者にインパクトを与えられるガイドライン」を目指して平成25年に完成させる予定だ。

最後に持丸氏は「来年の報告会はぜひ、お台場にあるデジタルヒューマン工学研究センターで行いたい」と話し、「実際に我々の研究施設を見ていただきたい。そして、皆さんからの意見を聞き、今後に活かしたい」と述べた。

また、閉会の挨拶で岩崎会長が「本プロジェクトを成功させるためにも、みなさんに意見をたくさん出してほしい」と参加者に協力を呼びかけた。

実験で使用された靴を試履する受講者たち

試作靴の展示・試作靴試履

報告会の合間には、産総研が実験のために制作した靴や木型がたくさん置かれていた。当日は様々なサイズの女性用パンプスが用意され、参加者は自由に試履することで「足入れの良さ」を体験した。

実際にボール部が改良されたパンプス。この靴を使用して実験した結果、靴の折り曲がる位置が変わることで、履きやすさが変わることが明らかになった。

産総研が制作した男性用の木型。一つひとつの形が微妙に違う。これを使用して圧力を測ることで、足の形が履き心地に関係することが分かった。

閉会の挨拶をする岩崎会長

EVENT

JLIA法制委員会セミナー「知財から見た中国との付き合い方」について

連合会法制委員会は2012年10月16日、皮革健保会館で「知財から見た中国との付き合い方」についてのセミナーを開催した。国際特許に造詣の深い連合会顧問弁理士の杉山・木村國際特許事務所所長の木村高明氏を講師に招き、中国の特許や商標について実例や権利の守り方についてご説明いただいた。

近年、知的財産の積極的な活用が経営上の重要課題となっていることを受け、中国における知的財産の使い方について知ることが今回のテーマ。講演前には、福本義朗委員長から「日本企業と中国との間で実際に起きた知的財産の訴訟を紹介するので、実際の業務に役立て参考にしてほしい」とあいさつがあった。

以下、講演の要旨を説明する。

講演中の木村氏

あいさつをする福本委員長

木村氏の講演（要旨）

外国企業は知的財産権を中国で取得することは必要不可欠

世界から見る中国の今

数年前から中国は「知的財産大国」と言われています。次の数字は2011年の日本と中国の特許出願件数です。

日本
- 特許：34.2万件
- 実用新案：8千件
- 意匠：3万件
- 商標：11万件

中国
- 特許：52.6万件
- 実用新案：58万件
- 意匠：52万件
- 商標：100万件

日本は一昨年まで世界第2位でしたが、昨年、中国が第1位になり、現在は第3位。この数字から、中国の知的財産に対する意識の高さが伺えます。

この背景には、中国政府が2003年に打ち出した「知財立国構想」があります。元々は1982年に当時アメリカ大統領のレーガン氏が打ち出した構想で、日本でも小泉内閣時に実施。アメリカ・日本は、自国で生まれたアイデアを世界に発信することで、各国の経済に大きな影響を与えることに成功しました。

また、国際的な中国の役割も知的財産大国へと後押しをしています。国連では「途上国グループ」に分類されている中国。しかし同時に「新興国」でもあり、ブラジルなどと共に途上国のリーダー的存在とし、途上国グループと先進国グループとの意見調整を行う役目を担っています。

中国における2つの事例

実際に日本企業の中国における失敗例と成功例をご紹介します（左参照）。

失敗例の原因を調査すると、B社が「元国営企業」であることが関係していました。B社の関係者が共産党と知り合いだったのです。A社は結局、中国から完全撤退しました。一方、成功例では、これらのことがクリアされています。

この2つの事例から、次のことが教訓として挙げられます。

❶外国企業は知的財産権を中国で取得することは絶対に必要
❷勝訴の例は、大企業のみ
❸国営企業・旧国営企業に対しては訴追をしない
❹商標の不正登録には有効な対応手段はない
❺中国は人脈社会である

中国人は権利意識が強い傾向にあります。そのため、不正登録される前に先手を打つことが大切。中小企業はライセンス供与を行うなど、侵害者や模倣者を味方に付ける方法を勧めます。ライセンス料の管理が困難な場合、権利そのものを譲渡しなければならないこともあるので気を付けてください。また、中国は人脈が大切。日本や西欧の正義感は通用しません。

中国と日本の違いを認識する

中国ビジネスに参入する際、必ず商標登録をし、自社のみが製造、販売を独占できる体制を作ることが必要。しかし、万が一、被害に遭った時のために、次の2つの措置を紹介します。

❶行政ルート
侵害を停止するために有効な措置。意匠、商標について事前登録することで、違法な輸出を阻止できる。

❷司法ルート
裁判所による救済措置。何を争うかによって提訴の仕方が違う。

●特許の場合
中級人民法院（地方裁判所）→高級人民法院（高等裁判所）→最高人民法院（最高裁判所）

●商標・意匠・著作権の場合
基層人民法院▼中級人民法院（地方裁判所）▼高級人民法院（高等裁判所）▼最高人民法院（最高裁判所）

司法ルートは金銭賠償を争うので、ハードルが高くなります。ですから、行政ルートを使う方を勧めます。

中国は完全に「異国」。文化など共通部分はありますが、「異国である」ことを忘れないでください。実際、中国に進出した企業の半分以上が失敗しています。そのことを覚悟し、日本企業側が事業を仕切るという強い意志を持ってください。また、事業の立ち上げや遂行にあたっては、中国側コーディネーターが重要。人口の多い中国で、良いコーディネーターを見つけることは困難ですが、成功例を見ると、ここが一番重要なのかもしれません。

失敗例

化学物質製造会社A社は「蓄光性蛍光体」を開発し、数々の賞を受賞した。これを受け、日本を含む世界各国へ特許を出願し、中国に主力工場を建設。一方、蛍光体技術者の第一人者で地元でも有名なS氏が主宰する企業は、中国を拠点に海外への蛍光体製品の輸出で利益を上げていた。

A社が中国へ特許出願した、その数カ月後にS氏も自社技術を出願。しかし、A社の方が先に出願をしていたため、S氏の出願は認められなかった。その後、S氏からA社に事業提携の申し出があったが、A社側はこれを拒否し、2社はライバル会社となった。

しばらくして、A社は欧州特許を取得。半年後にドイツの大手化学企業から、異議申し立てがあった（欧州では特許を取得してから9カ月間の特許異議期間が設けられている）。裁判で、ドイツの化学企業はS氏の技術をまとめた書類を証拠として提出し、S氏自身も証人として出廷。しかし裁判官は「証拠能力に大きな疑いがある」と判断し、A社の完全勝訴となった。

数年後、中国で大規模な建設工事が行われた。それに伴い、蛍光体の需要が高まり、中国全土で模倣する業者が現れた。そこでA社は一度は法廷で争ったものの、当時、事業提携を結んでいたS氏に相談。S氏の助言で、最も規模の大きな元国営企業であるB社に警告書を送付した。これを受けたB社は特許に対する無効審判を特許庁に提起。A社は中国で最も伝統のある最有力事務所の代理人を、B社は地方事務所の代理人をそれぞれ立て、裁判が始まった。当初は、A社が有利に展開していたが、判決は一転して敗訴。

その後、A社は日本の地方裁判所にあたる北京中級人民法院へ提訴。初審と同様、A社側が優位だったにも関わらずまたしても敗訴。さらに日本の高等裁判所にあたる北京高級人民法院へ上告したが、同様に敗訴。その時点でA社が裁判を断念したため、A社の中国における特許無効が確定した。

成功例

3～4人の小さな総合貿易会社。人体に貼る熱冷まし用冷却シートを日本で製造して中国へと輸出販売し、成功した。この商品は「医薬品」として中国政府の許可が必要。しかし、この審査は通常4～5年かかっても取得できない。そこで、日本の大学を卒業し、父親は共産党員で政府の元厚生大臣である中国人パートナーを起用した。その人の人脈で中国の医薬品業界で大きな影響力を持つの人物を紹介してもらい、中央政府への申請書類の作成を依頼した。半年足らずで許可が下りた。

会報「ジェイリア」第97号
2013（平成25）年3月25日発行
発行●社団法人日本皮革産業連合会・岩崎幸次郎
企画●調査・情報提供委員会委員長・矢代裕夫
編集●株式会社産業編集センター

JLIA MEMBER'S LIST ／日本皮革産業連合会　会員団体一覧

団体名	住所	電話	FAX
原材料			
社団法人 日本畜産副産物協会	〒106-0041 東京都港区麻布台1-7-3 神谷町スクエアビル４階	03-3505-8668	03-3505-8554
鞣製			
社団法人 日本タンナーズ協会	〒670-0964 兵庫県姫路市豊沢町129 あさひビル３階	079-282-6701	079-282-6703
販売			
日本革類卸売事業協同組合	〒111-0042 東京都台東区寿1-17-10 21プラザヤマヤ４階	03-3845-9210	03-3845-9211
全日本爬虫類皮革産業協同組合	〒111-0042 東京都台東区寿1-17-10 21プラザヤマヤ４階	03-3845-9260	03-3845-9261
大阪革商資材協会連合会	〒556-0014 大阪市浪速区大国町1-1-6	06-6647-8098	06-6647-8098
靴　製造／販売			
日本靴小売商連盟	〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町1-6-17 合同ビル５階	03-3252-5656	03-3252-5657
日本靴卸団体連合会	〒111-0032 東京都台東区浅草1-4-7 勉強堂ビル5階	03-3843-1673	03-3843-1674
全日本革靴工業協同組合連合会	〒111-0025 東京都台東区東浅草2-17-1 東京靴会館内	03-5603-2135	03-5603-8678
特定非営利活動法人 日本靴工業会	〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町3-3-9 久米ビル２階	03-3661-4672	03-3661-3972
日本ケミカルシューズ工業組合	〒653-0037 兵庫県神戸市長田区大橋町3-1-13	078-641-2525	078-641-2529
衣料製造			
全国皮革服装協同組合	〒110-0013 東京都台東区入谷1-15-9-501 ㈲プラムハウス内	03-3873-7650	03-3873-1155
ベルト製造			
日本服装ベルト工業連合会	〒111-0032 東京都台東区浅草4-49-8	03-3874-4792	03-3874-3670
東京洋裁雑貨工業協同組合	〒111-0056 東京都台東区小島1-11-12	03-3851-3685	03-3863-4606
バッグ　製造／販売			
日本ハンドバッグ卸連合会	〒111-0052 東京都台東区柳橋2-16-14 ハンドバッグ会館	03-3851-5278	03-3851-7725
日本ハンドバッグ工業連合会	〒111-0052 東京都台東区柳橋2-16-14 ハンドバッグ会館	03-3851-5278	03-3851-7725
一般社団法人 日本ハンドバッグ協会	〒111-0052 東京都台東区柳橋2-16-14 ハンドバッグ会館	03-3851-5278	03-3851-7725
鞄　製造／販売			
一般社団法人 日本鞄協会	〒111-0051 東京都台東区蔵前4-16-3 東京鞄会館	03-3862-3516	03-3862-3520
一般社団法人 東京鞄協会	〒111-0051 東京都台東区蔵前4-16-3 東京鞄会館	03-3862-3511	03-3862-3520
全国鞄工業連合会	〒111-0051 東京都台東区蔵前4-16-3 東京鞄会館	03-3862-3513	03-3862-3520
鞄ハンドバッグ　製造／販売			
日本鞄ハンドバッグ協会	〒111-0051 東京都台東区蔵前4-16-3 東京鞄会館	03-3862-3511	03-3862-3520
	〒111-0052 東京都台東区柳橋2-16-14 ハンドバッグ会館	03-3851-5278	03-3851-7725
手袋製造			
日本手袋工業組合	〒769-2701 香川県東かがわ市湊1810-1	0879-25-3208	0879-24-0838
その他			
日本ゼラチン・コラーゲンペプチド工業組合	〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-8-12 新田ゼラチン東京支店内	03-6667-8251	03-6667-8250
一般社団法人 足と靴と健康協議会	〒111-0032 東京都台東区浅草7-1-9 皮革会館	03-3874-7646	03-3875-0880
全国皮革振興会	〒111-0051 東京都台東区蔵前4-16-3 東京鞄会館５階	03-3865-7457	03-6905-8161
東京皮革商工協同組合	〒111-0032 東京都台東区浅草7-1-9 皮革会館	03-3873-6495	03-3874-2833
協同組合資材連	〒111-0032 東京都台東区浅草6-20-6	03-3873-6564	03-3873-6565

JAPAN LEATHER AND LEATHER GOODS INDUSTRIES ASSOCIATION

社団法人 日本皮革産業連合会

〒111-0043　東京都台東区駒形1-12-13　皮革健保会館7階
TEL:03-3847-1451㈹　FAX:03-3847-1510
http:www.jlia.or.jp